



4



1



5



2

あの日から10年

平成23年3月11日午後2時46分、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）が発生し、二本松市は震度6弱の強い揺れに見舞われました。

市内各地で家屋の損壊や道路の寸断が発生。停電や断水が相次ぎ、被災した市民の皆さんが避難所での生活を強いられました。

また、地震と津波の影響により、大量の放射性物質が大気中に放出され、二本松市は、市外からも大勢の避難者を受け入れることになりました。

地域住民の命と生活を守るため、地区役員や消防団、民生児童委員の皆さまが中心となって未曾有の災害への対応に当たりました。

気候変動の影響により、災害が頻発し、激甚化している中、私たちは震災の教訓を決して忘れてはなりません。

そして、未来へと伝えなければならないのです。

3

【震災発生時の主な経過】

日時	地震・原発事故	二本松市
3月11日（金）14時46分	・地震発生 ・震源地 三陸沖 ・マグニチュード 9.0 ・最大震度 7（宮城県栗原市）	・市立中学校卒業式 ・最大震度6弱を観測 ・住家被害 - 全壊 11棟 - 大規模半壊・半壊 475棟 - 一部損壊 539棟 - 公共施設 93棟 - その他 140棟 ・非住家被害 ※「全壊」「大規模半壊」「半壊」生活環境の保全に大きな影響が出る恐れがあるもの」となった家屋のうち131棟は、市費により解体撤去。 ・各避難所へ避難が始まる（最多時約1000人の市民が避難） ・東北自動車道通行止め ・東北新幹線・JR在来線運転見合わせ ・一般回線電話・携帯電話が繋がりにくい状況
21時19分	・原子力緊急事態宣言 ・東京電力福島第一原子力発電所（以下「第一原発」）	
23時03分	・半径3km圏内避難指示 ・半径10km圏内屋内退避指示	



10



8



6

- 1_地震の被害を受けた市民交流センター
- 2_二本松駅構内の電光掲示板
- 3_各地で道路の被害が発生
- 4_マンホールの隆起による通行止め
- 5_停電により交差点で交通整理する警察官
- 6_多くの人が集まった避難所
- 7_駒ヶ根市の協力を受けながらの給水
- 8_婦人会の皆さんらによる炊き出し
- 9_男女共生センターで行われた被ばくスクリーニング検査
- 10_震災発生直後から地域の見守りに活躍する消防団
- 11_地震による揺れで本が散乱する図書室



9



7



25日(金)	24日(木)	23日(水)	21日(月)	19日(土)	18日(金)	17日(木)	16日(水)	15日(火)	14日(月)	13日(日)	12日(土)
								11:00	11:01	18:25	5:44
・第一原発 半径20〜30km圏内自主避難要請	・第一原発 3号機で作業員の被ばくを確認	・第一原発 半径3km圏内避難指示 半径10km圏内屋内退避指示 第一原発 1号機で水素爆発 第二原発 半径10km圏内避難指示 第一原発 半径20km圏内避難指示	・第一原発 半径20〜30km圏内自主避難要請	・第一原発 3号機で作業員の被ばくを確認	・第一原発 半径20〜30km圏内自主避難要請	・第一原発 3号機で作業員の被ばくを確認	・第一原発 3号機で作業員の被ばくを確認	・第一原発 半径20〜30km圏内屋内退避指示	・第一原発 3号機で水素爆発	・第一原発 半径3km圏内避難指示 半径10km圏内屋内退避指示 第一原発 1号機で水素爆発 第二原発 半径10km圏内避難指示 第一原発 半径20km圏内避難指示	・第一原発 半径10km圏内避難指示 東京電力福島第二原子力発電所(以下「第二原発」) 半径3km圏内避難指示 半径10km圏内屋内退避指示 第一原発 1号機で水素爆発 第二原発 半径10km圏内避難指示 第一原発 半径20km圏内避難指示
・東北自動車道一般車両通行再開	・市立小学校卒業式中止 ・市水道全面復旧	・ガソリン等の燃料が不足し始める ・男女共生センターに双葉地方の老人ホーム等から避難 ・友好都市である「駒ヶ根市」から給水のための人的支援や物的支援を受ける(その後も、保健師を始めとする人的支援や物的支援を継続的に頂く)	・市内放射線量測定開始(最高8.7μSv/h)	・浪江町民が二本松市に避難	・市内放射線量測定開始(最高8.7μSv/h)	・市内放射線量測定開始(最高8.7μSv/h)	・市内放射線量測定開始(最高8.7μSv/h)	・市内放射線量測定開始(最高8.7μSv/h)	・市内放射線量測定開始(最高8.7μSv/h)	・市内放射線量測定開始(最高8.7μSv/h)	・市内放射線量測定開始(最高8.7μSv/h)

見えない放射線から市民を守る

原子力発電所事故が起き、市内の放射線量が急激に高まりました。

市では、3月18日から測定を開始。

5月には、学校の校庭の表土除去を開始しました。

6月には、学校に空調設備を設置し稼働させました。

その後、住宅除染を実施。集合住宅を含め1万4000件以上の住宅を除染しました。

市内に設置したモニタリングポストは116カ所。

自家消費農産物等の放射性物質簡易測定件数は、約6万5000件に上ります。

ホールボディカウンターによる内部被ばく量測定は、延べ約3万2000人が測定しています。

今後も、放射能対策として、「測ること」「記録すること」を継続し、市民の安全の確保に全力を尽くします。



4



5



6



7



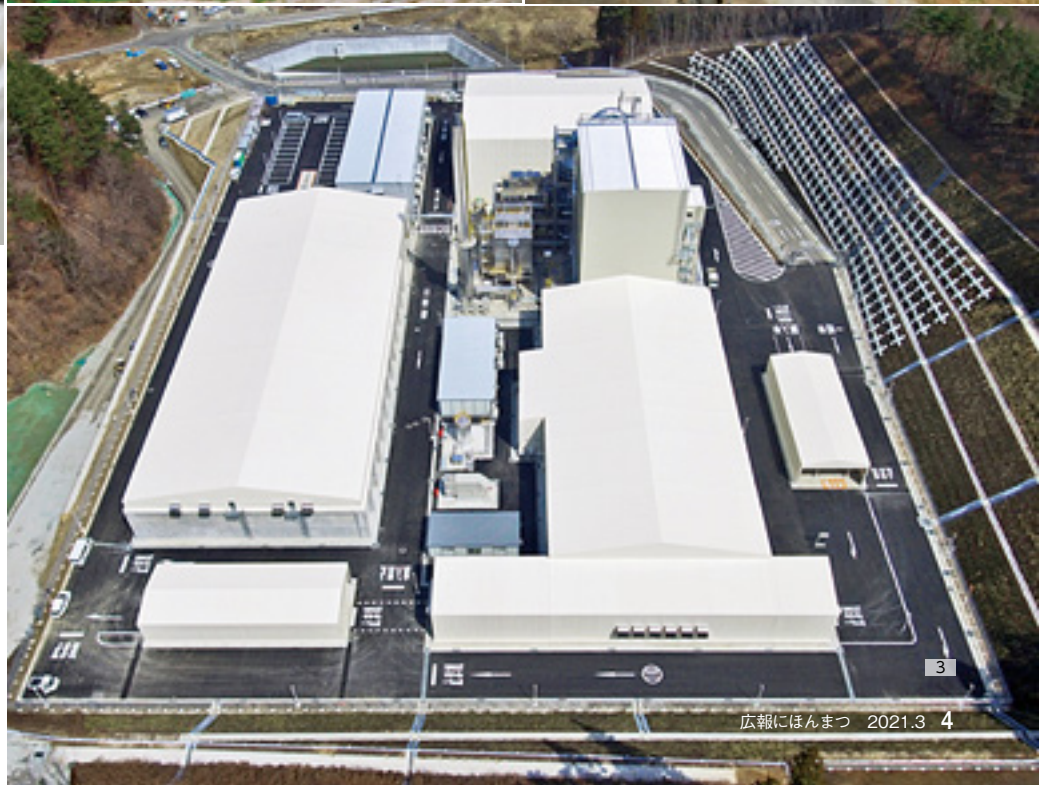
8



2

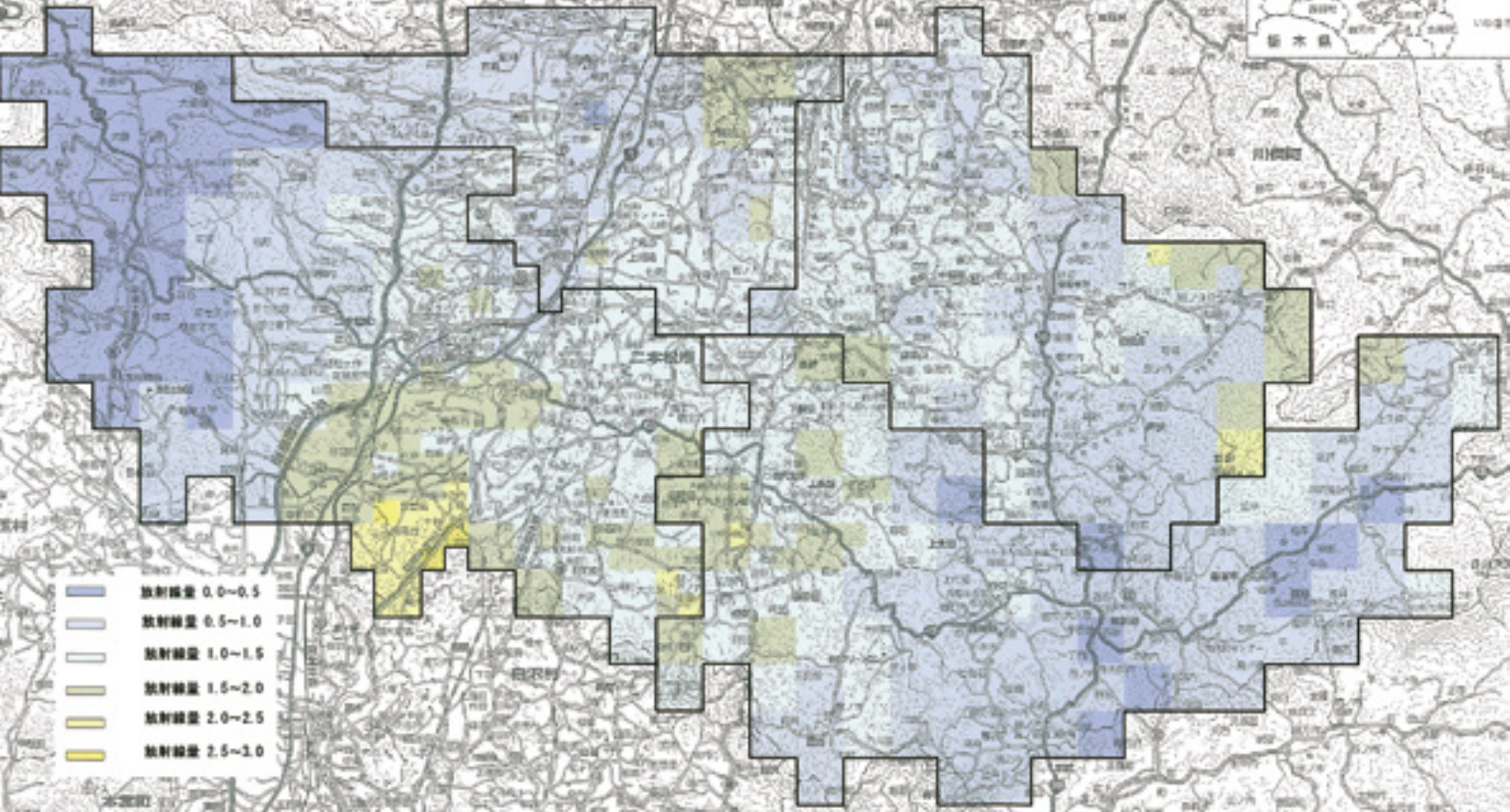


1



3

- 1_多くは手作業で行われた住宅の除染
- 2_地域ごとに地上保管された汚染土
- 3_安達地方に仮置きされている可燃性除染廃棄物などを焼却により減容化するため、環境省と安達地方広域行政組合の共同により建設された安達地方仮設焼却施設
- 4_他の市町村に先駆けて、いち早く各学校に空調設備を設置
- 5_各地に設置されたモニタリングポスト
- 6_米の全袋検査
- 7_自家消費農産物等の放射性物質簡易測定
- 8_ホールボディカウンターによる内部被ばく量測定

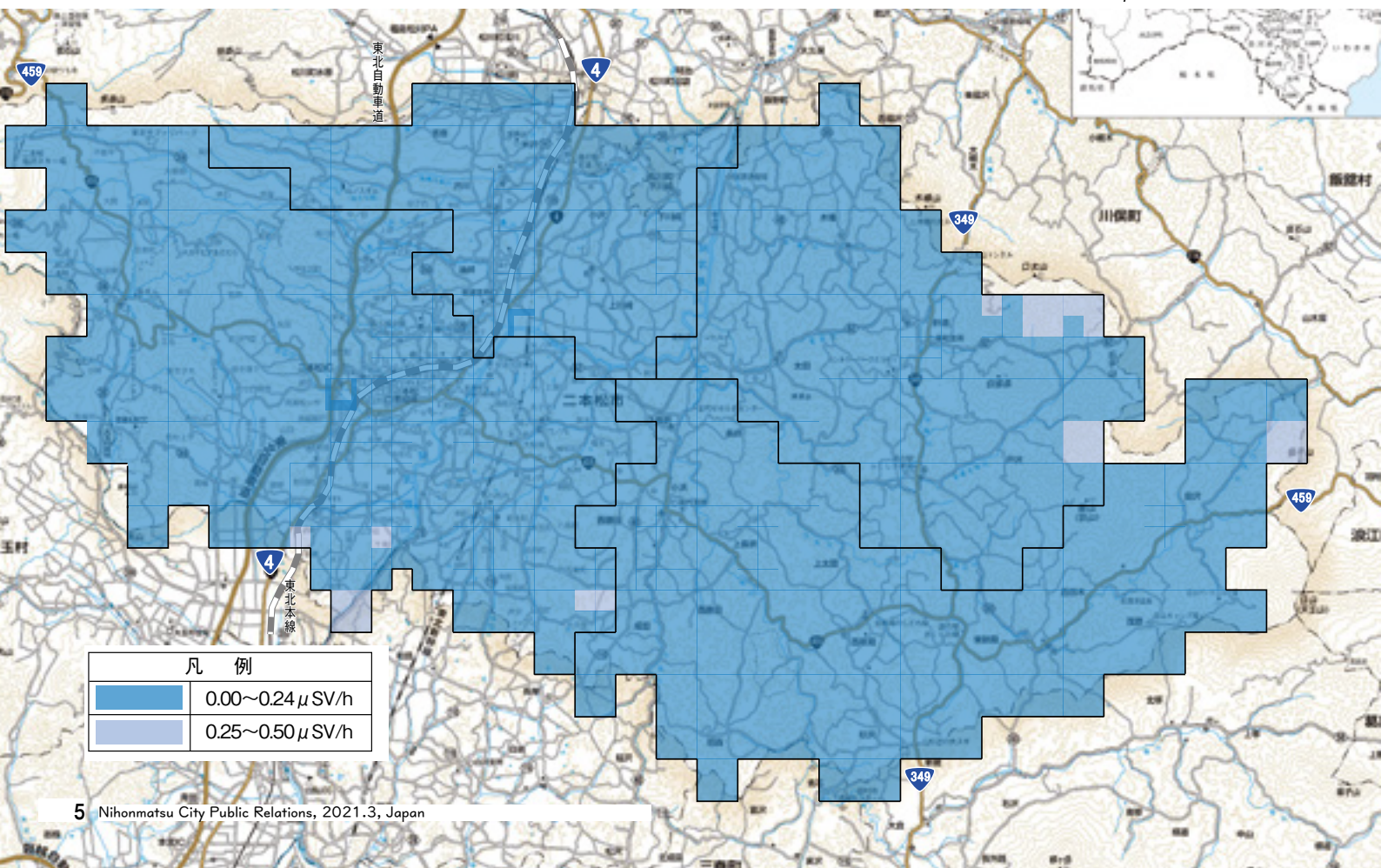


平成23年(2011年) 6～7月にかけて測定した市内全域の放射線量測定マップ 平均1.11 $\mu\text{Sv/h}$

マップで見比べる 放射線量

除染による効果のほか、物理的減衰などにより、2020年(令和2年)は、2011年(平成23年)に比べ、放射線量が約89.2%低減しました。

令和2年(2020年) 5～6月にかけて測定した市内全域の放射線量測定マップ 平均0.12 $\mu\text{Sv/h}$



市民の安全を確保するために

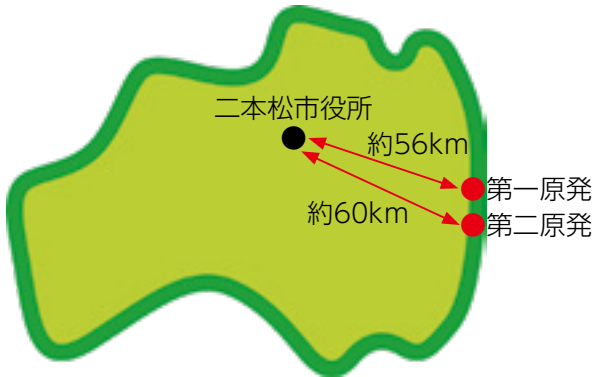
災害対策に「完了」はありません。

二本松市は、東日本大震災、原子力発電所事故を忘れることなく、それを教訓として、二本松市民がより安全に暮らせるよう、日々、新たな防災体制を築いていきます。

二本松市地域防災計画の見直し

平成26年6月、従来の計画を見直し、「原子力事故災害対策計画」を含めた新たな計画としました。

東京電力福島第一原子力発電所は、二本松市役所から約56kmの距離に立地しています。この見直しでは、原子炉施設から放射性物質または放射線が異常な水準で事業所外へ放出されることによる原子力災害を防止し、原子力災害からの復旧を図るための対策を盛り込みました。



地域防災計画QRコード

情報伝達手段の強化

平成26年7月、登録制緊急情報メールの運用を開始しました。

この緊急情報メールでは、地震関連だけでなく、河川の氾濫や避難所開設情報、防犯情報など安全の確保につながる情報を配信しています。

さらに、デジタル式の防災ラジオ、屋外スピーカーを導入し、市内全域に整備しました。

このほか、ツイッターなどの市公式SNSでも災害情報を発信しています。



防災マップの更新



令和元年5月、洪水、土砂災害、地震、火山等のさまざまな災害リスクに備えるための総合ハザードマップを作成し、市内全戸へ配布しました。そのハザードマップを活用した防災出前講座や自主防災組織の立上げに向けた説明会を実施しています。



防災出前講座



緊急情報メール配信サービス

市では、災害が発生した場合などに、緊急情報メールを配信しています。登録方法など詳しくは、市ウェブサイトをご覧ください。

災害情報…河川氾濫、避難所開設情報 など

環境情報…光化学スモッグやクマ出没情報 など

生活情報…道路(通行止め)・断水情報、

新型コロナウイルス感染症に関する情報 など

防犯情報…不審者情報 など

◎問い合わせ…秘書政策課秘書広報係 ☎(55) 5096

二本松市公式SNS

災害関連情報も！

市の情報をリアルタイムにお届けしています！！



↑登録はこちらから

◎問い合わせ…秘書政策課秘書広報係 ☎(55) 5096

備蓄品の充実

震災を教訓に、住民センターなどの避難所に保存水や保存食の備蓄を始めました。

また、新型コロナウイルス感染症対策として、マスク、非接触型体温測定器、間仕切り等の導入を進めています。
準備している備蓄品

- ・毛布
- ・保存水
- ・保存食
- （アルファ米、クッキー、液体ミルク等） など

【感染症対策】

- ・マスク
- ・手指消毒剤
- ・間仕切り（組立式テント）
- ・非接触型体温測定器
- ・簡易ベッド など



防災訓練の実施

市では、毎年9月、二本松警察署や北消防署、消防団、赤十字奉仕団、女性防火クラブ、地元行政区等と一緒に防災訓練を実施しています。

大地震を想定した訓練では、家屋の倒壊や火災が発生した場合に備えて、はしご車による救助訓練や倒壊家屋に巻き込まれた車両の中の運転手を救出する訓練、応急救護訓練、初期消火訓練などが行われます。

また、昨年は感染症が広まる中での避難や救助を想定した訓練を行いました。

訓練は、各地域持ち回りで実施され、今年は9月に東和地域で実施する予定です。



これまでに実施した防災訓練の様子



災害協定の充実

震災前から各自治体や医師会等と協定を締結していましたが、震災を教訓に、大規模災害におけるさまざまな事態に備えるため、多くの関連団体等と災害協定を結んできました。（下表のとおり）



埼玉県富士見市との災害時の相互応援に関する協定締結式



（協定締結順）

	協定締結先	協定内容
震災前	東京都葛飾区	相互応援に関する協定
	埼玉県越谷市	相互応援に関する協定
	広域圏内構成自治体	福島・宮城・山形広域圏災害時相互応援協定
	長野県駒ヶ根市	相互応援に関する協定
	一般社団法人安達医師会	医療救護に関する協定
	二本松管工事組合	地震等災害時の応急給水及び復旧に関する協定
震災後	NPO法人コメリ災害対策センター	物資供給に関する協定
	埼玉県富士見市	相互応援に関する協定
	福島県LPガス協会二本松支部	LPガスの供給協力に関する協定
	二本松市社会福祉協議会	災害ボランティアセンターの設置に関する協定
	株式会社ゼンリン	地図製品等の供給等に関する協定
	茨城県日立市	原子力災害時における日立市民の県外広域一時滞在に関する協定
	東北電力ネットワーク株式会社福島電力センター	災害時の協力に関する協定
	二本松地区ハイヤータクシー経営者協議会	タクシー車両による緊急輸送に関する協定
	福島県社会保険労務士会	労働・社会保険等の相談に関する協定
	二本松市建設事業協同組合	応急対策業務・内水処理業務の支援に関する協定
	日本郵便株式会社二本松郵便局	日常の防災活動・災害時の対応等、包括連携協定
	福島県葬祭業協同組合・福島県霊柩自動車組合	葬祭用品の調達等に関する協定
	東北地方整備局福島河川国道事務所	相互応援に関する協定
	株式会社東昇コンサルタント	無人航空機による情報収集活動（撮影等）に関する協定
	一般社団法人A Z-COM丸和・支援ネットワーク	物資の緊急輸送等に関する協定
	株式会社丸や運送	物資の緊急輸送等に関する協定
	福島県旅館ホテル生活衛生同業組合岳支部	宿泊施設の提供等に関する協定
	株式会社ポラリス（アーバンホテル二本松）	宿泊施設の提供等に関する協定
	株式会社ウッディ振興社	宿泊施設の提供等に関する協定
	株式会社ダイユーエイト	物資の供給に関する協定

コロナ禍における避難所の運営

避難所では、新型コロナウイルス感染症対策として、検温、手指消毒、施設消毒、換気等の基本的な感染症対策を行います。

避難者に対しても、問診を行い、年齢や体調に応じた避難スペースへの振り分けを行います。

また、市の指定避難所での密を防ぐため、「分散避難」として、「安全な場所に住んでいる方は自宅避難する」「危険な場所に住んでいる方は、市の避難所以外にも、安全な親戚・知人宅や地区の集会所等へ避難する」といった避難先の分散化を推進しています。

このほか、市と市内のホテル・旅館等との間で、配慮が必要な避難者に対する宿泊施設の提供に関する協定の締結も行ってきました。



避難所に入る際の検温（令和2年度防災訓練）

それぞれの思い　あの日から10年

二本松市消防団

団長 野地 政秋さん
(下川崎)



当時、安達地区隊で分隊長を務めていた野地さん。地震発生後、消防団員で手分けをして、一人暮らしの方の安否確認やがけ崩れなどの見回りを行いました。

この10年間で、震災を経験した人達が新たな団員になり、以前に比べ、災害に對して敏感な団員が増えていくように感じるそう。指示を待たなくても、見回りや警報活動を自主的に行い、その早めの行動が火災の予防に繋がっているとのこと。

消防団としては、団員の人数不足が課題だそうですが、「生業のかたわら、昼夜を問わず、消防団活動に携わってくれている団員に感謝をしています。昔は上下関係が強くなりました。訓練は規律正しくする必要がありますが、これからは、昔のしがらみを無くして、訓練以外は、みんなて明るく透明感のある消防団活動をしていってほしい」と話してくれました。

高野 結衣さん (木幡)



母・小百合さんは、福島市の病院で、震災が起きる5時間ほど前に、結衣ちゃんを出産。帝王切開だったため意識がはっきりしない中、結衣ちゃんを抱っこした状態で、ベッドごと病院の駐車場に避難しました。

雪が舞う屋外はあまりに寒く、居合わせた方のワンボックスカーをお借りして寒さをしのいだそう。その後、数日間病院にいたものの、父・英夫さんもガソリンが手に入らず、病院に來れなくて、小百合さんは「さみしかった」そう。

あの日から10年。結衣さんは小学4年生になりました。風邪も引かず丈夫に育っています。「震災があっても産んでくれてうれし



高野さんご家族 後列左から英夫さん、小百合さん
前列左から小春さん、結衣さん、暖彩さん

かったし、つらい事があった時でも、お父さんとお母さんが『大丈夫だよ』っていつも言ってくれてうれし」と話してくれました。

市民が主役。

市長からの手紙

明日へつなげよう!!



二本松市長

三保 忠一

平成23年3月11日午後2時46分、世界最大級のマグニチュード9.0の地震が発生。家屋の倒壊、道路通行不能、断水、停電、情報網の遮断、学校、体育施設、農業用施設などに甚大な被害。

当時私は、市民の「命と安全を守る」ことを最優先に「二本松市災害対策本部」を設置し、余震が続く中、ライフラインの確保と災害復旧に昼夜を問わず、市民、市職員の力を結集して対応に当たりました。

地震発生も東の間、東京電力福島第一原発が爆発。空気も、大地も、森も、美しい自然環境も放射能で汚染され、放射能との戦いが始まりました。

二本松市は、浪江町から4千名を超える人々を受け入れ、そして、大気中の放射能から子供を守るため窓を閉めて授業を受けられるよう他自治体に先駆け小・中学校、保育所・幼稚園にクーラーを設置しました。市民の生命、健康、安全のための放射線量調査、農

産物の検査、米の全量全袋検査を実施し、住宅を始め、学校、工場、道路、農地等の除染と被災者の生活再建、雇用対策、農業・中小企業の経営再建に全力を挙げ取り組んでまいりました。そして、農業、商工業、観光等、放射能の風評被害、公共施設、産業基盤の早期復旧と国の財政支援を国と東京電力に強く要請しました。

3・11は、世界が変わり、日本が変わる。「歴史の分水嶺」であります。

東日本大震災からの復旧復興と世界的に蔓延するコロナから「市民の命と健康を守る。」ことを最優先に「感染防止」「生活を守る」「経済再生」「ワクチン接種」を進めてまいります。

そして、輝く未来を創造するための10年間の市政運営の基本となる新しい「二本松市総合計画」がスタートいたします。震災前よりも、そして今よりも、もっと豊かに、しあわせに暮らせる住み良い二本松を築くために全力を尽くしてまいります。